





習時期の変更や学校現場からの要望を踏まえての教育実習生への指導の強化を確認することができた。

- ・ 「学びノート教室サポート事業」（7月28日から8月9日の間に、24名参加）、「現職教員研修への学生参加（養成と研修の融合）」、「教員インターンシップ事業」（10月～2月の間に、24名参加）、「教育実践演習における現地調査」（10月～11月の間に、250名参加）を実施した。特に、「教育実践演習における現地調査」は熊本市教育委員会との連携で、熊本市の小・中学校の研究発表会に4年次の学生が参加することができ、現場の研究発表会の内容、教員の取組等を見ることができて有意義であった。研究発表の当該校からも学生の熱心な参加態度に好印象を持っていただき、今後とも持続していきたいと双方で確認して大変有意義な取組となった。
- ・ 秋田大学への調査出張（11月18日～19日、2名）

秋田大学へ調査出張を行い、就職率向上対策、教育委員会との連携、新課程・新学科について意見交換を行い、本学の教員の資質能力向上策に寄与する貴重な情報を収集することができた。
- ・ 熊本市・熊本県の教育委員会との連携

「熊本県教育委員会との教育連絡協議会」（11月28日、26名参加）を開催し、熊本県との意見交換、情報交換、要望等を行い、連携を深める事ができた。県・市の教育委員会からは小・中・高の教員免許と特別支援学校の教員免許を両方取得している学生の増加への要望が出され、教育学部でもカリキュラムの見直しが始まった。教育学部からは教員採用試験の情報や展望、現役受験生への配慮等の要望を行った。また、熊本県・市の教育委員会との諮問会議設置の準備委員会（11月29日開催、15名参加）も開催することができ、諮問会議設置に向け規則等の整備中である。

なお、熊本市教育委員会とは、連携協力会議（5月14日、24名参加）を開催し、意見交換、情報交換等を行った。
- ・ 「教員養成機能シンポジウム（第2弾）～『地域密接型大学』における高度専門職業人としての力量ある教員の養成戦略」（12月7日、134参加）を開催した。その際、参加者にアンケートを行った。シンポジウムの内容とアンケート集計結果については報告書を作成したのでそちらを参照されたい。
- ・ 教職実践演習における「履修カルテにおける学生による自己評価結果の分析」と「教職実践演習の実施報告」（「教職実践演習指導者用テキスト」「教職実践演習テキスト」を含む）、「大学院生へのアンケート」と「現職派遣大学院生への聞き取り調査」を行い、『教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業報告書』にまとめた。詳細はそちらを参照されたい。

この「履修カルテ」の分析の中で、熊本大学の教育学部の教育実習に対する学生の側からの自己評価の結果が見えてくる。熊本大学の積み上げ方式の教育実習が有効に機能しているということが分析の結果見えてきた。課題としては、教育実習の体験を積み上げるにしたがって、「幼児・児童及び生徒理解や学級経営」に課題を持つ学生が小学校教員養成課程や中学校教員養成課程の学生に多いのを見て取れたことである。小・中学校教員養成課程の学生で次に多い課題は、「教科の指導力」であった。「特別支援学校教員養成課程」では、「教科の指導力」を課題とするのがトップで「幼児・児童及び生徒理解や学級経営」が2番目であった。「養護教諭養成課程」では「社会性や対人関係能力」を課題とするのがトップで「使命感や責任感、教育的愛情」が2番目で、僅差で「教科の指導力」となっている。各課程で求める課題が違うのが分

かる。

「大学院生へのアンケート」は今後の教職大学院設置への参考にしていきたい。教育学研究科の院生は専門教科の学力の深まりを重視しつつ、大学院での教育実習を行い実践と研究の融合を目指すことを多く希望している。大学院での教育実習の時期と形態についてはこれらの意見を参考にしてよりよいものになるように検討を加えていきたい。

「現職派遣教員の大学院生」への聞き取り調査で要望が強かったのは、昔書いた自分の卒業論文や最近書いている学校現場の報告書の書き方と修士論文の書き方が違うので、修士論文の書き方の指導を早くからやってほしいこと。次に、同年代の院生仲間がないので研究やその他の相談に乗ってもらえるような制度として、現職派遣で大学院を修了した人々との連絡・相談ができるような制度があると助かるという要望が強かった。このような諸問題は聞き取り調査をしてみて初めて認識できたことである。アンケート結果についても報告書を参照されたい。

- 学習指導要領シンポジウム（第4弾）「論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発 ～教科間連携・幼小中連携を視野に入れて～」（3月1日、340名参加）を開催し、地域の学校現場と附属学校園、教育学部教員、教育学部学生、教育学研究科の大学院生が参加し、教科間連携・幼小中連携を視野に入れた「論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発」に関する研究成果を発信することができた。この報告書は次年度にまとめることになる。
- 福井大学への調査出張（3月14日～15日、2名）  
福井大学へ教職大学院と履修カリキュラム等についての調査出張を行い、教員の資質能力向上策に寄与する貴重な情報を得ることができた。